

シリーズ 優良実践校の取組 **学校力向上 ここがポイント!**

真庭市立 落合小学校

「当たり前前」のことが「当たり前」にできる」ための取組の重点化と徹底

「通信」による意義の再確認

何のための「あいさつ」「くつそろえ」「ノーチャイム」「ノーメディア」なのか!

日ごろ当たり前に取り組んでいる教育活動の価値や意義を「校長通信」によって再確認し、学校と保護者が協力してめざす子ども像に迫る

保護者への発信

注連山 落合小学校校長通信 平成27年6月18日 第17号

なぜ、靴を揃える習慣があるのか?

最近、トイレのスリッパが学校で非常に多いです。おまわりにも気になりますので、教職員に対してこんな話をしました。何でも、靴を揃えている今の日本ですが、日本にはとても良い習慣があります。それは、靴(はきもの)を揃える習慣です。なんだ、そんなことか!と決して軽く考えないで下さい。これは紛れもない事実です。本当に素晴らしい習慣なのです。



教職員への発信

ポイント! ここが!


授業改善の重点化と基礎基本の徹底

「学習指導のスタンダード」のチェックシートを活用し、全教員が自らを自己評価。その結果から「重点徹底」する取組を決定し授業改善へ

→ 落合小の重点項目


1	めあて(目標)を児童の「わかった」「できた」と言える表現にしましょう!
2	必ず考えをもたせ、グループやペア学習を効果的に活用しましょう!
3	授業内容を構造的に分かりやすく示す板書にしていきましょう!
4	「わかった」「できた」と自覚したことを自分の言葉で書かせましょう!

具体的な取組は、「岡山型学習指導のスタンダード」のP3~7「一単位時間の授業5」と「指導の基礎・基本」を参考にしましょう。特に、2と4は場づくりです。教師が意図すれば、前に進んでいく取組です!今から当たり前のこととして!



ポイント! ここが!

平成27年度 ともに創ろう おかやまの未来 ー 見て分かる教師ガイド ー



「ともに創ろうおかやまの未来」(県総教セ)を活用し、学習規律や学習指導の基礎を再確認 ※初任者による初任研報告を毎回実施 ※H27初任者研修講座会場校

【落合小学校 校長室だより】 H27. 6. 3. **注連山の麓** 第5号

「ノーチャイム制」の意義を考える!

学ぶ力の基礎となる力として「聞く(聴く)力」「話す力」「読む力」「書く力」があげられますが、もう一つ「時計の力」も大切ではないでしょうか。この力を育む視点で「ノーチャイム制」を考えてみたいと思います。

「キーンコーン、カーンコンコキーンコンコンコーン」学校に響き渡るチャイムの音で、日本中の多くの小中学校で聞かれるチャイムの音です。ところが、落合小学校ではこのチャイムの音が聞こえてきません。どうして「ノーチャイム制」をとっているのでしょうか?



主任クラス教員の学校づくりへの参画

主任クラスの教員からの積極的な取組改善の提案による学校づくりの推進

↓体育主任からの提案

重点的取組事項

・**握力** にしませんか?

6年連続1位の福島県の取組

○ゲームー運動 1日3時間のゲームー運動の費材計が一立派のようになり、全学年での取組

○握力計が使える環境 教室に置いてあり、いつでも計れる!! 一体育室で稼働して、各階に設置したい!

シリーズ 優良実践校の取組 **学校力向上 ここがポイント!**

**美咲町立
美咲中央小学校**

定着度の分析を活かした補充学習と組織的な校内研修による授業改善の取組

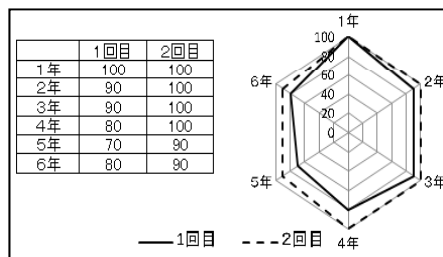
調査結果分析から 学力向上を目指し 短期目標⇒徹底した繰り返し学習
 学力の課題を共有 2つの目標を設定 中・長期目標⇒自ら考える力を付ける授業改善

定着度の分析を活かした補充学習

朝学習，放課後学習を時程表に位置付け，
全学年で繰り返し学習を実施

学習課題の見える化

- ・ 単元別たしかめテストなどの結果からカルテ(学級と個人)を作成し定着度を分析
- ・ CRTを2月に実施し，未定着の学習内容を把握。



↑個人カルテの例
↓放課後学習の様子



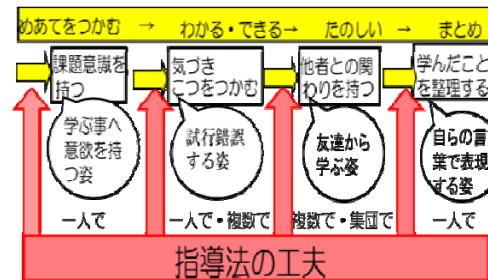
ポイント！

- ・ 復習プリントをワークスペースに準備
- ・ 担任外が採点し，担任へフィードバック

組織的な校内研修を通じた授業改善

授業改善モデル図の作成と共有

- ・ 授業を組み立てるイメージづくり
- ・ 研究授業を振り返る際によりどころ



学年団チームで個人を高める授業研究

【個人の取組】
・ 試行錯誤による授業改善の実践
・ 結果を個人の実践記録に記入

【チームの取組】
・ 個人の実践記録を検討
・ 指導案の検討
・ 模擬授業の実施

ここがポイント!

【個人の取組】
・ 新たな知見や方法を自らの実践にどう取り入れるかを検討

【チームの取組】
・ モデル図に基づいて授業を省察
・ 改善点を集約し研究通信で発信

- 「個人の実践記録」の観点
- 1 教科・単元名
 - 2 自ら進んで考える力を身に付けるためにどんな指導法の工夫を行ったか
 - 3 その工夫は成功だったか失敗だったか(理由も記述)
 - 4 今後、どう改善するか